

◆今期間のポイント

＜主要しょう乱の概要＞

- 28日は、低気圧が日本の東を北東に進み、別の低気圧が日本の南を東に進む。
- 3月1日は、日本付近は北の高気圧に覆われる。
- 2日は、北日本から東日本は引き続き北の高気圧に覆われるが、低気圧が東シナ海で発生する。
- 3日は、低気圧が日本海と本州南岸をそれぞれ東に進む。
- 4日は、低気圧が日本の東へ進む。

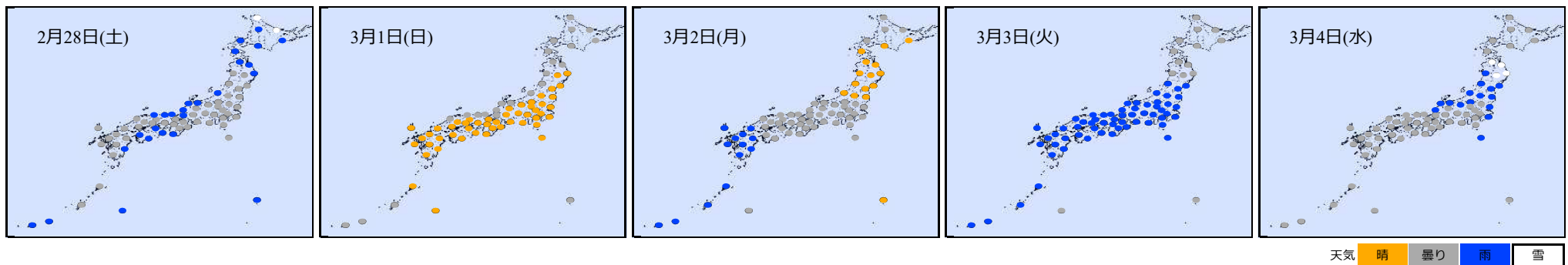
＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

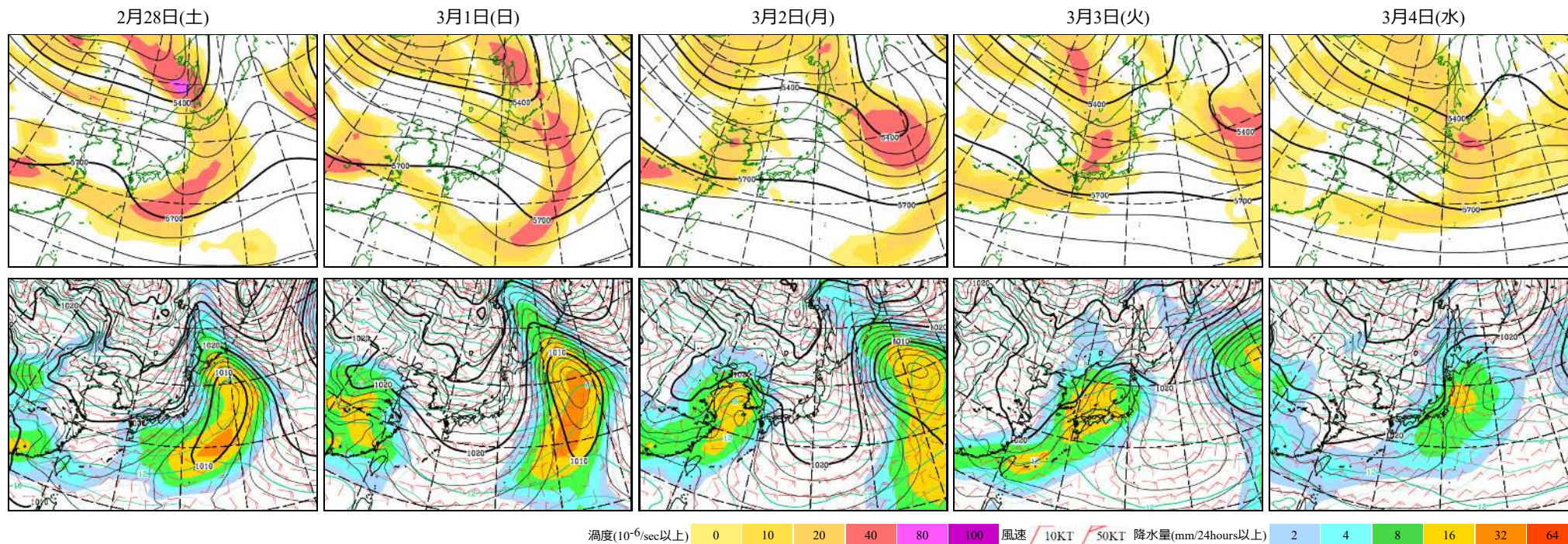
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

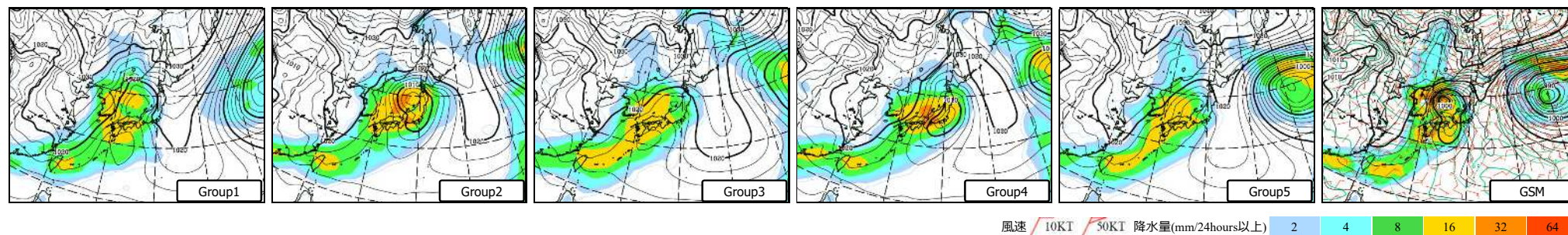


- 北日本は、曇りや雨または雪の降る日が多いが、3月1日から2日にかけては晴れる所がある。
- 東日本、西日本、沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多いが、1日は晴れる所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆3月3日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、28日は日本の東を北東に進む低気圧が昨日資料に比べて日本から離れたところを進む傾向となったことや日本の南を東へ進む低気圧の勢力が弱まったため、降水確率ガイダンスの値は、東北地方から西日本にかけて低くなった所が多い。
- モデル間の差は期間のはじめから見られ、28日に日本の東を進む低気圧は、日本モデルは北東へ進むが、海外モデルではオホーツク海へ進む予想。また、3月2日から4日にかけて日本付近を東へ進む低気圧については、その位置や勢力に違いが見られる。
- スプレッドは期間の終わりは大きく、特定高度線のバラつきも大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。